
大湾区情報 No. 25

グレーターベイエリア情報 発行：2021年11月23日



「大湾区情報」では、日系企業の皆様に有用と考えられる最新情報をいくつかピックアップしお届けします。

【香港、世界最大のバイオテックファイナンスセンターを目指す】



香港中文大学のロッキー・トゥアン（段崇智）学長は5日に公開された大学ウェブサイトのブログ「一点一段」で、香港の大学が如何に大湾区のイノベーション発展を後押しするかについて以下のように述べています。

大湾区のテクノロジーと産業のイノベーションを促進するためには、地域内にハイテク専門家人材ハブを構築し、将来の経済発展を推進するのに十分な研究人材を集めることが重要となります。香港では、公立8大学のうち5大学がQS世界トップ100の大学にランクインしており、人材提供の点において大湾区の発展に貢献することが可能であり、また、香港はイノベーション、研究、教育において世界的に高い評価を得ています。最近では、大湾区の高等教育資源を充実させ、研究分野の持続的な発展を促進するために、複数の香港の大学が大湾区に分校や支部を設置することを発表しています。

新世代の人材を育成することに加えて、バイオメディカル・イノベーションにおける香港の世界的なリーダーシップは、大湾区にさらなる利益をもたらすことが予想されます。香港は、間もなくニューヨークを抜いて世界最大のバイオ・ファイナンスセンターになること、香港証券取引所が無収益のバイオ企業の上場を認可したこと、成熟した医療研究システムなど、これら重要な分野において香港は大湾区の他の都市にはない独自の利点を有しています。

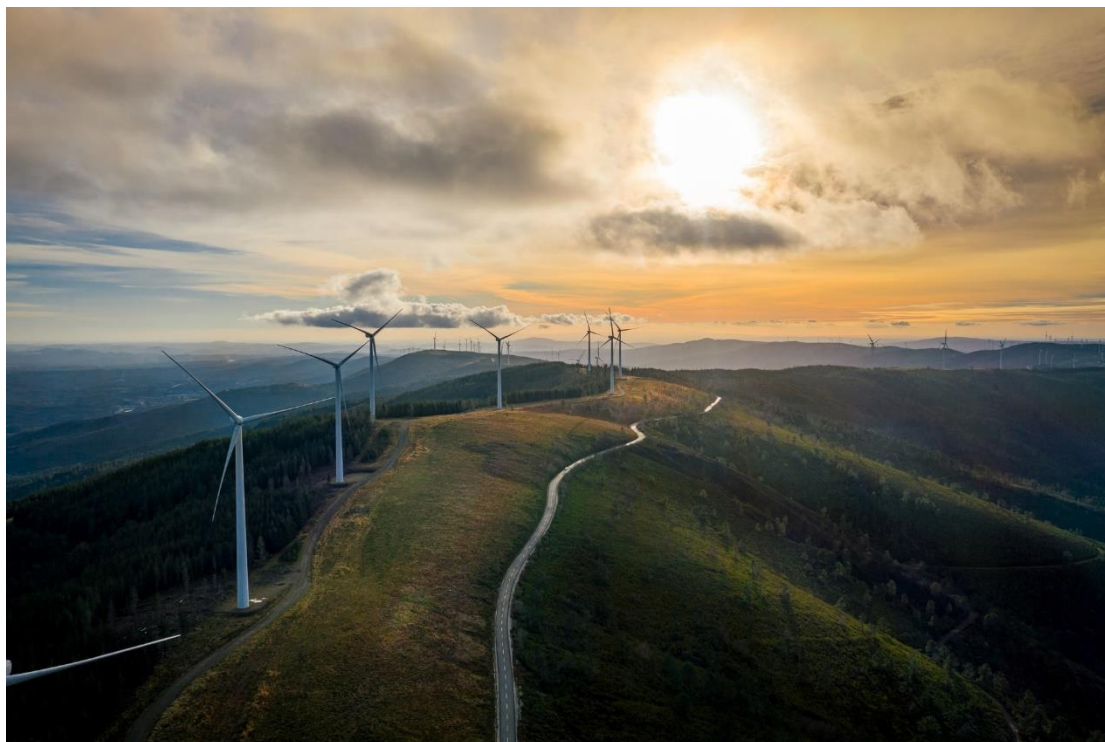
また、香港には世界ランクの大学のネットワークが確立されていること、バイオテクノロジー分野において、十分な資金および人材が供給されていること、香港の臨床試験データが国際的な規制機関の認可を受けていることなどから、世界のどこにも負けないバイオメディカルのエコシステムが構築されています。

近年、香港のスタートアップ企業の発展はスピードアップしており、現在3,300社を超えるスタートアップ企業が存在しています。今年の施政方針演説では、政府が香港サイエンス&テクノロジーパーク（香港科技园）の大幅な拡張、並びに中文大学病院のフェーズ2開発のための土地割り当てについて言及しています。これらのプロジェクトは、バイオメディカル・イノベーションのハブとしての香港をさらに発展させ、香港の国際的なイメージを高めるものとなります。

香港は過去数十年の間に世界的な金融センターとして栄えてきました。香港の優秀な大学が提供する世界レベルの教育と、実用化可能な研究を積極的に推進することで、香港は今後もハブとしての地位を維持し、中国本土と世界各地との架

け橋となり、大湾区の将来の飛躍的な発展における重要さを増すことが期待されています。

【財務事務及庫務局(FSTB) 局長、グリーン・ファイナンスハブとしての香港の優位性を日本のビジネス界にアピール】



香港政府の財務管轄部門である財務事務及庫務局の局長（Financial Services and the Treasury Bureau，以下 FSTB）、クリストファー・ホイ（許正宇）氏は 10 月 29 日に、香港駐東京経済貿易代表部が主催、インベスト香港が共催のオンラインセミナー「香港ーグリーン&サステナブル・ファイナンスのハブ〜リターンと意義を両立する投資」に参加し、日本と香港のビジネスリーダーや経営者約 240 名に対し、日本企業にとって香港の金融市場、特にグリーンファイナンスやサステナブル・ファイナンスの分野におけるメリットについて、また最新動向と地域におけるグリーン・サステナブルなファイナンスハブとしての香港の地位を強化するための主要なイニシアチブについて以下のように紹介しました。

中国政府の第14次5カ年計画では、2060年までにカーボンニュートラル達成を目指しており、香港は2020年の行政長官の施政方針演説で、2050年までのカーボンニュートラル達成に向けて努力すると発表しました。この目標に貢献するために、香港政府は市場の発展を促進し、香港の規制基準を国際基準に一致させ、大湾区の開発と「一帯一路」プロジェクトから生じる膨大なグリーンファイナンスのチャンスを捉えるための強化を進めています。

香港で手配・発行されたグリーンボンド並びにグリーンローンの総額は、2020年に120億米ドルに達し、2020年末時点で累計380億米ドルを超えました。また、政府のグリーンボンドスキームでは、2回の債券発行により総額35億米ドルのグリーンボンドが発行されました。政府は市場の状況を考慮しながら、今後5年間で合計約1,755億香港ドル相当のグリーンボンドを発行する見込みとなっています。

グリーン&サステナビリティ・ボンドの発行者や借り手が香港の融資プラットフォームや専門的なサービスをより多く利用できるように、政府は2021年5月に「グリーン&サステナブル・ファイナンス資金援助スキーム」を開始し、対象となる債券の発行者や借り手の債券発行費用や外部審査サービスに対し資金援助を行っています。また、このスキームは、より多くの金融機関や専門サービスプロバイダー、外部審査機関が地域のハブとして香港に拠点を置くことを奨励するものでもあります。

規制面では、「国際サステナブル・ファイナンスプラットフォーム」が技術研究を行っており、香港は、当プラットフォームで制定中の共通グリーン分類目録の適用を目標とし、並びに香港の金融セクターがローカルレベルで適応・応用できる分野についても検討しています。

今後の展望としては、2021年の施政方針演説において香港の人材リストに「ESG関連の金融専門家」を加えることを行政長官が提案しており、ESG関連の金融専門家は、国際レベルでのグリーン&サステナブルファイナンスの発展にと

って特に重要であり、日本のようなパートナーと協力して関連人材ハブを充実させることができることを歓迎するとされました。

オンラインセミナーには他に、スタンダード・チャータード銀行のサステナブルファイナンス責任者（中国・北アジア担当）兼香港グリーンファイナンス協会副会長兼副事務局長のトレイシー・ウォン氏、グリーン・ファイナンス・ネットワーク・ジャパン事務局長、高田英樹氏、みずほ証券株式会社サステナビリティ推進部サステナビリティ戦略開発室室長、伊井幸恵氏が登壇しました。香港と日本におけるグリーンファイナンスの発展の見通しや、関連分野での両地域の協力の機会について意見交換が行われました。

【「前海深圳香港国際金融城」着工 入居契約済企業の30%超が香港・外資系企業】



10月28日、「前海深圳香港国際金融城（以下「前海金融城」）」が正式に着工し、式典が行われました。深圳と香港の協力関係を重視し、大手の国際金融機

関、香港・外資系の金融機関、デジタル金融機関の機能的なクラスターを形成し、差別化された発展、Win-Win の提携による国際金融プラットフォームとして立ち上がります。現在、100 社以上の各種金融機関が入居契約をしており、うち香港系、外資系金融機関の比率は 30%を超えています。

「香港・深圳の金融協力の能力レベルを共に高める」

深圳市委員会常務委員・深圳市常務副市長の黄敏氏は、前海金融城の着工は、「前海深圳香港現代サービス産業協力区の改革開放の包括的推進計画」の「中国金融業界の対外開放のための試験的な窓口およびクロスボーダー人民元業務におけるイノベーション先行区の機能強化」という要求を実行するための具体的な行動であり、これは、前海の「両城六区一園一場六鎮双港」**プロジェクトにおける重要な進展であり、深圳と香港の協力レベルをさらに高めるための新たなプラットフォームを前海に提供するものになります。

**「両城六区一園一場六鎮双港」：深圳市前海にて開発が進められているビジネス、居住関連の建設プロジェクトの総称。例えば、「両城」は前海深圳香港国際服務城と今回の前海金融城を指す。

「前海金融城の建設過程で、香港は、その経験を提供し、強みを生かして、金融市場の相互接続の深化、グリーンファイナンスとフィンテックの開発の共同促進を行い、前海と共同で香港・深圳間の金融能力のシナジーを高めていく」と香港金融發展局のローレンス・リー（李律仁）主席は述べました。

香港政府の財務長官であるポール・チャン（陳茂波）氏は、「前海金融城の建設着工は、香港と深圳の協力関係における新たなマイルストーンであり、人民元の国際化、両地域の金融市場のさらなる相互接続、大湾区の保険業の発展など、様々な金融の分野で香港と前海が引き続き更なる協力の可能性を探り、大湾区の金融業界が実体経済によりよく貢献できるように共同推進していくことを期待しています。」と語りました。

100 万平方メートル以上のオフィススペース

前海協力区党工作委員会副書記、前海管理局常務副局長の黄曉鵬氏は、前海金融城が 3 つの大きな優位性を持つことを以下のように紹介しました。

まず第一に、質の高いオフィススペースが十分にあること。計画総面積 2.3 平方キロメートルの金融城は、ビジネス、ホテル、インターナショナルスクール、文化交流などの総合的な機能を備えており、「前海国際金融交流センター」や「前海石公園」などの公共施設の建設も予定されており、深圳と香港の金融関係者のために高レベルの住みやすい、働きやすい、楽しめる生活圏を形成しています。100 万平方メートルを超える高品質でコストパフォーマンスの良いオフィススペースが用意されます。

第二に、産業クラスターの形成状況が顕著であること。前海金融城は現在、100 以上の各種金融機関と既に入居契約しており、そのうち香港と外資を合わせると 30%以上を占めています。

第三に、クロスボーダーの金融イノベーションが活発であること。前海は香港の金融市場との相互運用性、人民元のクロスボーダー使用、外国為替管理の円滑化などの先駆者です。最近では、中国工商銀行（ICBC）や招商銀行など深圳の 12 の銀行が中心となって、前海で初の「跨境理財通」（クロスボーダー・ウェルスマネジメント・コネクト）のパイロット事業を立ち上げました。

着工式において前海管理局は、市地方金融監督管理局、中国人民銀行深圳市中心支店、深圳銀行保険監督管理委員会、並びに深圳証券監督管理委員会と「前海金融城の建設支援に関する協力協定」を締結し、また、スイス再保険（外資）、大新銀行（香港）、UBS 前海（外資）、AXA 安盛天平保険（外資）、招融投資（香港）の 5 つの香港・海外の主要機関との間で、金融協力イノベーションに関する協定を締結しました。

また、招連消費金融、招商局仁和人寿保険、東亜前海證券、東亜銀行前海支

店、恒生前海基金管理、韓国 IBK 企業銀行（中国）深圳支店、真意保険代理、集友股権投資管理（深圳）、光大金控香港資産管理、前海金融控股、創金合信基金管理、深圳市金融ブロックチェーン発展促進会、深圳市グリーン・ファイナンス協会など、13 の主な金融機関が前海金融城に進出を予定しています。

【参考資料】

[・香港、世界最大のバイオテックファイナンスセンターを目指す 大湾区人材育成に貢献し、国際社会と繋ぐ](#)（香港経済日報 11月7日）

[・段崇智校長ブログ《一点一段》「香港の大学は如何に大湾区のイノベーション発展を後押しするか」](#)（11月5日）

[・財経事務及庫務局局長、グリーン・ファイナンスハブとしての香港の優位性を日本のビジネス界にアピール](#)

[・「前海深圳香港国際金融城」着工 入居契約済の30%超が香港・外資系企業](#)